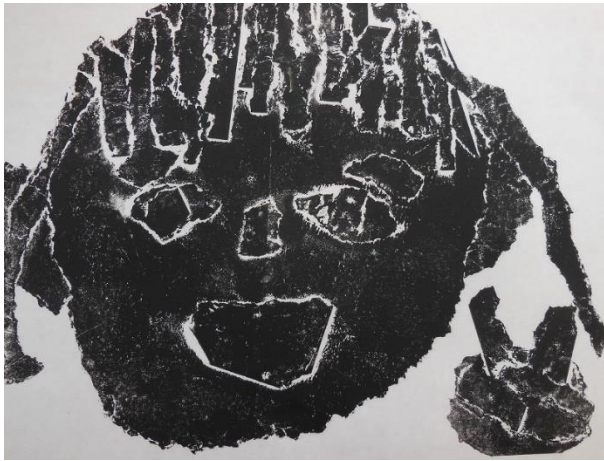


第9回清明賞受賞作品

1月13日（水）に本校出身の洋画家 池田清明先生を招いて第9回清明賞授与式を行いました。今年度の受賞作品と清明先生の講評を紹介いたします。



「じゃんけん チョキ！」 1年 唐井 公子

画面いっぱいに描かれた大きな顔と小さな手。口を開けて笑っている表情が可愛いです。一年生ならではの自由で大胆な絵ですが、髪型や顔のりんかくなど、よく観察して描いています。この顔は公子ちゃんによく似ているのですね。



「かさじぞう」 2年 小見山 愛星

雪の中にお地藏さんが嬉しそうな顔をして並んでいます。雪を描いたことで、はっきりしてきた地藏とぼんやりした地藏ができました。それが何とも言えない絵の味になっています。落ち葉と雪が混ざっている道の色も味わいのある色です。ただ一つ、冬ですから遠くの山はもう少し渋い色の方がいいかもしれません。



「手ぶくろ」 3年 大野 千輝

私の見た挿絵ではうす暗い森の中で、手袋の中の動物が狭くてぎゅうぎゅうになっていました。千輝くんの絵は明るい広場の中、大きな手袋の中で動物たちがのびのびしています。そのイメージの違いによりこの絵が新鮮に見えました。同じテーマで描いても皆それぞれにちがうということ、それが絵の良さでもあります。



「タカとフクロウ」 4年 川合 夏未

写真か何かをよく見て描いたのでしょうか。空中で戦っているタカとフクロウの動きが実に見事に描かれています。また、丁寧な鳥の表現に対し、バックの自由な線が空の風を表しているようで、絵に動きと広がりを感じられます。



「ぼくは、キーパー」 5年 丸谷 崇斗

白いゴールポストをよぎるようにキーパーを画面の対角線いっぱいに描いています。ダイナミックな構図です。目を見開き、大きな口を開けた顔が印象的です。一見石垣のように見えるネットですが、一枠ごとに色に変化を付け丁寧に描いていて、ここにも絵としての魅力があります。



「修学旅行の思い出」 6年 高見 弥央

大きな水槽の中をゆったりと泳いでいるジンベイザメやエイなど、それぞれの形や色の特徴を捉えて上手く描いています。魚の向こうに人を描くことで奥行き生まれ、人から出る泡がまた効果的で、水槽の深さと水族館らしさを表しています。